

常なる磐

つねなる いわ

令和2年5月14日(木)号

◇ 学校再開に向けて

GWあけの5月11日(月)。児童にとっては10日ぶりの登校であったが、多くの元気な姿を見ることができた。連休後もよい始まりができたと安心する。

本校は4月の臨時休校の再発令以来、月曜日と木曜日の週2日を自主的な登校日として設定した。登校にあたっては、児童が装着するマスクを準備したり、登校日だけでなく平素の体温を検温して記録したりするなど、保護者の方にも様々な協力をいただいている。学校では、手洗いの励行のほか、教室での児童の座席配置を工夫し、窓を開放して十分な換気を確保するなど、現状で出来る限りの万策を講じてきた。

そうした中で、次から次へと感染症拡大防止対策の追通知が岡崎市教育委員会から自分のもとに届く。何通もの通知文からは、国、もしくは愛知県からの通知に従い、岡崎市内の子供たちの安全を最優先にしながら、何とか子供たちに公教育を提供しようと尽力する意図がくみ取れ、教育委員会には本当に頭が下がる思いである。

中でも、5月4日の大村知事による「6月の学校再開に係る分散登校（のちに5月25日からに修正）」の発言よりも2週間も前に「自主的登校日に係る分散登校・時差登校」を各小中学校に指示していた点は、流石と言うしかない。

しかし、この「子供たちの教室内での3密を解く分散登校」は、各小学校で頭を悩ませた。特に「登校時の通学団を分けなければいけないこと」「分散のグループ分け」、さらに「通学団登校の安全性確保の懸念」である。

幸い本校は、全学年とも「分散登校による最大児童生徒数20人以下」の基準を下回っており、岡崎市教育委員会の了解を得て、分散ではなく、通常登校を実施することができている。班長が低学年の児童の歩く速さを考えて班員を先導し、見守り隊の方が寄り添っていただける通常登校が実施できているのは、本当にありがたいことである。

そして、「通学団による全員登校」、さらに「教室におおよその児童が集う環境」という2つの【いつもどおり】ができていることが、学校再開に向けた【子供たちのリズム】を自然に生み出しているのだ。これこそ、最大の準備となる。

皆が、待ちに待った学校再開。
今こそ、【チーム常磐東】。万全の準備と対応で、この難局を乗り切っていく。